ザ AZABU

Community Information Paper
Vol.25 27 September 2013
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812（代表）ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

愛の時を刻むストリート・ファニチャーのデザイン・アート

六本木ヒルズ　六本木けやき坂通りにあるストリート・ファニチャー（道にあるイス）の素材は、強いステンレス、セラミック塗装。しかし、その深紅色の形は、飛天の天衣のショールが空を舞う様に軽やかで、優雅、またリボンを上下に振ると現れる躍動感ある波形です。時に、優しい母の眼差しの中で子どもたちがファニチャーによじのぼったり、また外国人の親子が仲良く並んでそれに座り写真を撮ったりしています。その光景にふれている人たちの心に、突然愛の時が刻みだし、親子が去りゆくと幻と消えてしまいます。
ストリート・ファニチャーのタイトルは、ジャズの名曲「I CAN'T GIVE YOU ANYTHING BUT LOVE・・・」より「愛だけを・・・」。

ストリート・ファニチャー「愛だけを・・・」

アートな麻布に魅せられて③

内田繁（うちだ　しげる）氏は、椅子、照明器具、時計などにとどまらず建築空間、特にファッション・デザイナーの山本耀司氏のブティック、茶室に至るまでデザインされ、ミラノ、ニューヨークなどで展覧会を開くなど世界的に活躍しています。毎日デザイン賞、芸術選奨文部大臣賞等受賞、紫綬褒章受章。

●ストリート・ファニチャーの誕生

六本木けやき坂通りにはいくつかのデザインされたストリート・ファニチャーがあります。その坂のデザインについて森ビル（株）森　稔社長（当時）から依頼を受けたインテリア・デザイナー　内田　繁氏は、世界を代表するデザイナーたちに「まったく新しい考えで、今、現在をデザインした世界にひとつのストリート・ファニチャーの創作を」と呼びかけ参加しました。幸運なことに、その当時の世界のデザイナーたちの共通認識であったコンセプトは、技術一辺倒の道具ではなく、モノと人がひとつにつながり、生活の中で心を豊かにするデザインを探求することであったそうです。

ストリート・ファニチャーのひとつ、「愛だけを・・・」は内田氏の平成15年（2003年）の創作です。ほぼ15度近い高低差ある傾斜の道にデザインされたストリート・ファニチャー「愛だけを・・・」は、最初からカーブした断面をイメージして、デザインを何度か試みるなかでリボンのようなカーブになったそうです。そして街路にデザインをするため、明解な色彩が必要だと思って、ご自分の好きな赤を選びました。

●デザインとは「時間」を創る行為である

ストリート・ファニチャー、時計、建築空間などの機能と役割は、日常の生活の中にあります。それらをデザインすると、モノと人の関係が深まり、「家事や仕事」などの時間、心の糧となる「遊び」などの時間、さらに自然現象に関わる「祈り」の時間等々がより豊かになり、各々が自分にあったライフ・スタイルを快適に過ごすことが出来ます。各々がクオリティを高く自由に生きる「時間」を創ること、それがデザインの課題と内田氏は考え、さらに、デザイン表現の多様性を求めて、茶道や和歌の日本の伝統的な「わび」、「はかなさ」や「やさしさ」などの「弱さ」の美を加えることが大切としています。

●ストリート・ファニチャー「愛だけを・・・」はデザイン・アート

六本木けやき坂通りの力強い直線の斜面に日本的美のたおやかな曲線を対比させ、深紅色にデザインしたストリート・ファニチャー「愛だけを・・・」、恋人たちには甘美な時を、老いた人に幸せの時を、病める人にやすらぎの時を、力みなぎる人には思索の時など、一瞬の「時」を発光します。

あなたは、それに座ってどんな「時」を刻むことが出来るのでしょうか。形も見えない、書かれてもいないヒューマニティを無限に感じさせ、見せてくれます。

「愛だけを・・・」、ストリート・ファニチャー。新しい時代のデザイン・アートです。

参考文献／内田　繁著　Designscape　工作舎
内田　繁著　デザインとは何か　桑沢デザイン研究所
内田　繁著　インテリアと日本人　昌文社

取材協力／内田繁、㈱内田デザイン研究所
撮影協力／㈱リライアンス　〒106-0031　港区西麻布3-16-28
〈敬称略〉

内田氏がデザインしたル・ベイン霞町ビル、内田デザイン研究所3F

内田　繁作品「Moo」

MITATE、ギャラリー・ベインのあるパティオの空間

内田　繁作品「December」神戸ファッション美術館収蔵

内田　繁作品「NY Chair I」

（取材／田中亜紀、森　明　文／森　明）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

エフゲニー・ニコラエヴィチ・アクショーノフさん

半世紀にわたり、100を超える国の人々を治療
外国人の救世主 六本木の赤ひげ先生

六本木、飯倉片町の一角に築100年余の洋館が佇む。ここがドクター、エフゲニー・ニコラエヴィチ・アクショーノフ氏（以下ドクター）が経営する「インターナショナル・クリニック」だ。1924年生まれの89歳のドクターの専門は外科だが、周囲の大病院と連携して、来る者拒まずの一貫した姿勢で今日も優しい眼差しで、日本人医師、看護師と共に患者の治療にあたっている。ドクターの長きにわたる歩みを伺った。

外国人にとってなくてはならない存在

父上はロシア人、母上はドイツ人で、ドクターは満州ハルピン生まれである。1943年に来日、東京慈恵会医科大学で学び、1953年に麻布警察署前のビルでクリニックを開設、現在の麻布台に移ったのは1956年である。

「周りにロシア大使館、アメリカンクラブがあり、アメリカ大使館やホテルオークラも近いので、開業するなりとても忙しかったですよ」と、当時を振り返る。英語、中国語、ロシア語、ドイツ語、ギリシア語、そして日本語も堪能なドクターは、在日外国人のみならず来日するVIP扱いの外国人の健康管理にはなくてはならない人物だったのである。とくに印象に残る方は？と伺うと、私たちがよく知っている名前が出てくる出てくる！ジョン・ウェイン、マイケル・ジャクソン、ブラット・ピット、レディー・ガガ、大物俳優や人気歌手の名前がずらり。彼らとの出会いやエピソードを、まるで昨日のことのように鮮明に記憶しているドクター。その当時を懐かしむように、お話を聞かせていただいた。

満州ハルピンで幼少時代を過ごした（ドクター 4歳頃）。

大物俳優や人気歌手ともなるとハードなスケジュールをこなさなくてはならず、日常的な過労、長旅の疲れと時差、慣れない土地でのストレス、公務や仕事に対する緊張や不安など、体調を崩してしまう要因はいくらでもある。たとえ夜中であろうと外出先であろうと、お呼びがかかればすぐに患者のもとに駆けつけたというドクター。病状を診て、話を聞き、必要があればその場で簡単な手術をした。また、こんなこともあった。アメリカから日本公演のために来日中の女性歌手が体調を崩したと連絡があり、ホテルの部屋に駆けつけたところ、彼女はどこかが悪いというわけではなかった。ただ、過労とストレスを察したドクターは、手を握って彼女の話を聞いた。リラックスしたせいかすっかり回復した彼女のひとこと、「ドクター、ずっとここにいて」

問診の時間をとても大切にしているという、ドクターの人柄が伺えるエピソード。クリニックで19年看護士を務める山本ルミさんも、こうおっしゃっていた。「病気や体調不良で苦しんでいるときに、どこからどう見ても日本人という風貌の医師が駆けつけるより、ドクターのあの顔を見るだけでも患者さんはほっと安心するんですよ」ドクターの顔には、気さくで温かな人柄がよく表れている。アーティストを招聘するエージェンシーのスタッフが緊急事態のためにドクターの連絡先を肌身離さず持っているというのも、頷ける話である。

貧しい人からは治療費を受けとらない

ドクターのクリニックでは、日本の健康保険は使えない。それゆえに外国人の患者が大半だが、開業以来、来る者拒まずの姿勢を貫いている。パスポートがなくても、具合の悪い人を決して見放すことはない。お金がなければ、治療費を請求せずに帰宅させる。生活費がなければ、工面してあげる。「私は医者ですから、困った人に手を差し伸べるのは当然でしょう」ドクターの無償の愛は社会的にも高い評価を受け、1998年に第32回吉川英治文化賞、2007年に社会貢献支援財団の社会貢献者として表彰されている。

ドクターの人柄を表すかのように、患者さんからの感謝の手紙や 写真が壁中に飾られている。

ドクターの笑顔

区の歴史的建造物であるクリニック

クリニックは木造2階建て、ドクターが開設された1956年当時から、手を入れた箇所は数えるほど。

港区の歴史的建造物の貴重な家屋である。「関東大震災（大正12年/1923）以前に建てられていたそうですが、正確な年はわかりません。ロンドンに赴任していた日本銀行の春田氏が、イギリス住宅を模して作らせたそうです。その後、外国人の手にわたり、最後の所有者だった親戚から譲り受けました。2階は入院用ベッドを置いた和室でしたが、今は使っていません」

玄関ポーチがあり、玄関扉に鳥をモチーフにしたステンドグラスが。玄関ホール左手が待合室である。当時はダイニングルームだったようだ。『外壁はスタッコ仕上げとして、窓回りと腰部分にスクラッチタクィル張りを施している。窓は上下窓とする。』（港区の歴史的建造物　P175　2006年港区教育委員会発行より抜粋）。その隣はドクターがゆったりと腰掛けて問診をする診察室。廊下の床も黒光りしていて、手入れの良さが伝わってくる。最近雨漏りがあり、「とい」を修理したところ、と山本さんが説明して下さった。

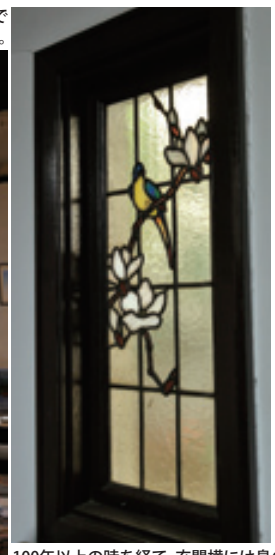
＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

取材後にドクターを撮影する準備をしていたら、ドクターのスーツのポケットから丸いフランスパンが1個出て来ました。看護師の山本ルミさんによると、戦時中に来日したドクターは食料難を経験されておられるので外で食事をして余ると「もったいない」と言って持って帰られるそうです。

困った人にいつも手を差し伸べるドクターの原点を物語るエピソードに心温まり、クリニックを後にしました。

クリニック表札（上）、クリニック入り口（下）

玄関左にある待合室。建物の100年以上の歴史がしみこんでいて、都心の喧噪を忘れさせる、穏やかな空気が流れている。



100年以上の時を経て、玄関横には鳥のモチーフ、ステンドグラス が組み込まれ、客を迎えている。

インターナショナルクリニック
港区麻布台1-5-9

（取材・文／大澤佳枝、永浜和美、高柳由紀子）

ワタシも麻布っ子

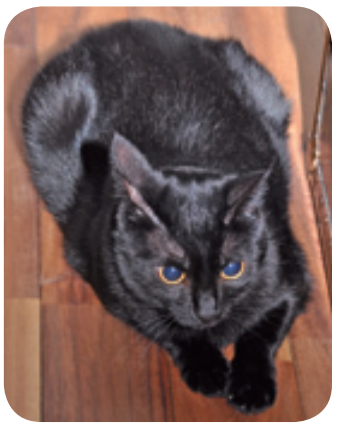
このコーナーでは、
あなたの大切な“家族”を
紹介していきます。

読者の方から、まん丸な目が印象的な美しい猫ちゃんをご紹介頂き、漆黒の淑女、クレアちゃんと同居人のNさんを元麻布のお宅に訪ねました。クレアちゃん、見慣れぬ取材スタッフに緊張しながらも、いろいろと語ってくれましたよ。

ワタシ、もうすぐ二歳になるクレア。去年、ここNさんちに貰われてきたの。Nさんたら、ホントは猫アレルギーがあるの。でも、昔から大の猫好きで、いつか猫と暮らしたいって夢見てたそうよ。ネットで里親制度を探してみたけど、上手くいかなかったんですって。

丁度その頃、前の家族が遠くに行くことになって、お知り合いにワタシを貰ってくれる人を探していたの。人伝えに話を聞き付けたNさん、ワタシのプロマイド(！)写真に一目惚れ、お見合い成功♪　で、すぐにここに来たの。

前はやんちゃ坊主二人におもちゃ代わりにされていたから、ここのお家は、天国よ。Nさんは基本放任主義だけど、時々遊んでくれるし、お互い良い距離感で暮らしているの。とはいえ、お引越しして一週間は落ち着かなかったわ、多摩からいきなり麻布ですもの。気後れじゃないけど、軽度の脱毛症になっちゃって、Nさんには心配かけたの。



ワタシの一日は、朝ごはんのおねだりから始まるの。Nさんのベッドにもぐりこんで、腕をあま噛みするのよ、アラームと競いながらね。

昼間はいつもひとり。お外に出ないかわり、時々ブラインドの外側に行って窓の外を眺めるの。元麻布ヒルズの木々で一休みする小鳥さんのさえずりも聞こえるし、ご近所の猫ちゃんの鳴き声にも癒されるわ。

夕方帰ってくるNさんに、玄関までお腹すいたを訴えに出るんだけど、彼女 お出迎えと思っているみたい、これ内緒ね。

なんだか食いしん坊みたいに聞こえるでしょ。そう実はお医者様から太り気味といわれていて、ご飯の量はひかえてるの。もう少し身軽になったら、他の猫ちゃんたちのように高い所に登れるようになれるかも。でも、うっかり落ちて自慢の毛並みが傷ついたら美猫が台無し、またNさんに心配かけちゃうから、大人しくしてよっと。

あなたの大好きな動物をご紹介下さい。

必ず写真を添えて、下記宛てに郵送ください。飼い主の自薦、他薦は問いません。飼い主と一緒の写真も掲載できます。ご応募多数の場合は編集会議に諮りますが、採否の審査過程のお問い合わせには応じかねます。採用させて頂く場合は改めて取材に伺います。お送り頂いた資料は採否に拘わらず返却致しませんので、予めご了承下さい。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

〒106-8515 港区六本木5-16-45
港区麻布地区総合支所 協働推進課　地区政策担当　「ワタシも麻布っ子」応募係

お待ちしています♪

（取材／出石供子、満木葉子　文／出石供子）

ビューティー＆クリエイティブ アーティスト
柳　延人 さん

多くのメイクアップアーティストを束ねる株式会社ウィローの代表取締役を務める傍ら、母校ハリウッドビューティー専門学校で後進の指導にあたっている。

世の中にはいろいろな仕事があります

ヘアメイクアップアーティスト

子どもに生きていく力を

KIDS ハローワーク

親子で読んでみよう

“美ジュアル”を創る魔術師

今回は、ヘアメイクアップアーティストのお仕事です。港区立高陵中学校の2年生3名が、株式会社ウィロー（六本木）の柳 延人さんにお話を伺いました。

口紅って、リップクリーム塗るのとは、勝手が違うわ！

柳さん考案の3連ヘアアイロンでウェーブ作りに挑戦。

◎どんなお仕事ですか？

タレントやモデルさんが、テレビ・映画・舞台や雑誌などのメディアに登場するために必要なビジュアルを創る仕事です。文字通り、髪の毛のセットとお化粧をします。

◎ヘアメイクアップアーティストになるには？

一般的には美容の専門学校に通い、美容師資格を取得するのが有効です。私の場合も、元々美容師として活動しながら、メイクの勉強をして、今では両方をこなしています。

◎このお仕事に興味をもったきっかけは？

子どものころ、映画『猿の惑星』を見て、衝撃を受けました。また、8歳年上の姉がいるのですが、素顔とお化粧後の変わりざまを間近で見ていて、子どもなりにそのからくりが面白く、化粧に興味を持ちました。

◎ご両親の反応は？

元々運動部で大学にも進学しましたが、中退して専門学校に入りました。両親は「美容は女性の仕事」という観念が強く、大反対されました。でも無事免許を取り、プロとなって両親の髪をセットした時にすごく喜んでくれました。その時、やっと認めてもらえた、と思えました。

◎道具について教えてください

仕事場には沢山の道具を持っていきます。特にハサミには気を使います。一日に十数人の髪を切ることもあるので、自分が疲れてしまっては良い仕事ができません。良いハサミは、よく切れるだけでなく、自分の体への負担も少ないのです。ブラシも用途によって50本程を使い分けます。道具を通じてモデルさんとコミュニケーションをとることも心がけています。カラフルなパレットや、ジュエリーのついたハサミを見て、モデルさんが幸せな気分になれば、ヘアメイクする側のテンションも上がり、お互いに良い仕事が出来ると信じています。

様々な表情や陰影を演出する色鮮やかなパレットとブラシ。

◎喜びを感じるのは？

美しく仕上がった方から「ありがとう」と言われる瞬間はもちろんのこと、自分がメイクした方が、舞台に立ち照明を浴びるシーンを見た時の満足度は、計り知れません。また、道具や手法を一つ違えただけで仕上がりが大きく変わることがわかると、技術の奥深さを実感し、ますますこの仕事が楽しくなります。

もう少しお姉さんになったら、メイクを習いたいでーす！

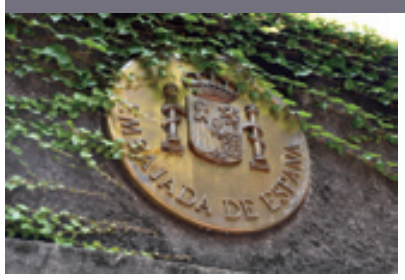
（取材・文／阿部真奈、井上れみ、太田真緒　取材サポート／出石供子）

スペイン
面積：　50.6万平方キロメートル（日本の約1.3倍）
人口：　約4,719万人（2011年1月推計）
首都：　マドリード（マドリード市人口約326万人）（2011年1月推計）
言語：　スペイン（カスティジャ）語（地方によってはバスク語、カタルニア語、ガリシア語、バレンシア語が各州における公用語として認められている）
宗教：　憲法で信仰の自由が保障されている（約75%がカトリック教徒と言われる）
政体：　議会君主制
元首：　フアン・カルロス一世（Juan Carlos I）国王（1975年11月22日即位）
議会：　二院制（上院266、下院350議席）（各々任期4年及び解散制度あり）

外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/spain/index.htmlより

ミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ特命全権大使　　取材協力／スペイン大使館

大使を訪ねて ㉔
麻布の"世界"から



Spain

スパニッシュ・コロニアル様式の門構え。内部左側が大使館、右側の庭の奥に公邸がある。

交流400周年。
今、あらためてスペインと日本の絆を認識する

今年は、日本とスペイン交流400周年を迎える記念すべき年。両国では今年から来年にかけ「日本スペイン交流400周年」として交流事業を実施、何かと話題も多い。六本木１丁目、オフィス街とはいえ緑が豊かに残る一角に立つスペイン大使館を訪問し、ミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ特命全権大使にインタビューさせていただいた。

国宝　支倉常長像（仙台市博物館　蔵）

日本とスペインが共同推薦した「慶長遣欧使節関係資料」は、この6月、ユネスコの世界記憶遺産に登録された。また、支倉一行が搭乗した「サン・ファン・バウティスタ号」は1993年に復元され、東日本大震災の際、10mを超す津波を受けながら持ちこたえた。石巻市にある「宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）」（2013年11月3日に再開館予定）に係留・展示されている。

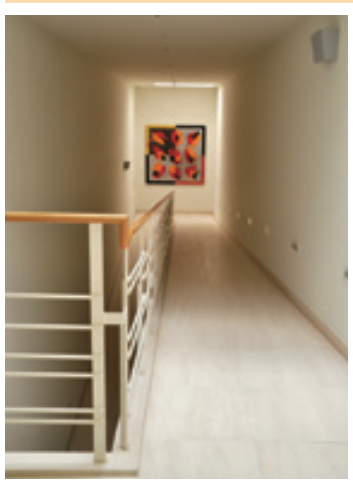
慶長遣欧使節団が交流のはじまり

インタビューでまず大きく話題にのぼったのが、400年前の『慶長遣欧使節団』と、その子孫である『ハポン』の名前をもつ人々のことだ。新聞記事やテレビ番組でも取り上げられ、興味をおもちの方も多いだろう。

1613年（慶長18年）、仙台藩主・伊達政宗は、支倉常長（はせくらつねなが）を大使とする使節団を、メキシコ（当時はスペイン領）のアカプルコ経由で、スペインへと派遣する。繁栄を極めていたスペイン王国に、貿易の道筋を求めてのことだ。常長は現地で洗礼を受けてキリスト教に改宗し、スペイン国王・フェリペ3世に謁見、後にはローマ教皇パウロ5世にも謁見し、1620年仙台へ帰着する。

その際、スペインに残した足跡として「ハポン姓」がある。スペインの南西、アンダルシア州・セビリア近郊の町、コリア・デル・リオには、現在、約650人の「ハポン姓」をもつ人々がいる。「ハポン」とは“Japon”、“Xappon”と書く、日本を指す言葉。使節団一行のうち数名が当地に残留し、子孫を残したと言われている。今年6月、皇太子殿下が「日本スペイン交流400周年」名誉総裁としてスペインを公式にご訪問。セビリアにて、ハポン姓の人たちとのレセプションに出席、歓迎されたと報じられた。この時、大使も同行されている。「現地では、町の歴史として使節団のことが語り継がれ、支倉氏の像も建立されています。ハポン姓の人々はそれを誇りに思い、今年は大変な盛り上がりをみせています。レセプションも盛況でした。また、ハポン姓の方はスポーツ界をはじめ各方面で活躍されていますね」。

ここで追記しておきたいのは、使節団派遣の2年前、1611年（慶長16年）、仙台藩が「慶長三陸地震」の津波による甚大な被害を被ったことだ。使節団派遣の背景には、震災復興の一環として、海外との交易を求めた側面もあったのではとの見解もある。そして400年のタイムトンネルをくぐり抜け、東日本大震災の2年後の今、再び、絆を確認しあう。両国は不思議なほどの深い縁で結ばれているのだ。


スペイン人建築家パブロ・カルバハルを中心に設計され、2004年に完成した大使館は、採光に配慮した光と影のコントラストが心地よい空間。各コーナーにモダンな絵画やリヤドロの作品が飾られている。

カスティーリャ・ラ・マンチャの風車小屋をモチーフにした絵画。

ユニークなこの人形は、侍をデフォルメした、名窯リヤドロの400周年記念の作品。

スペイン人にもなじむ日本の文化

今年6月、宮城県在住の俳人がスペイン6都市で俳句の実作指導と講演を行ったというニュースがあった。会場のひとつ、カスティーリャ・ラ・マンチャ大学アルバセテ校の夏季俳句セミナーには、スペイン俳句界の第一線の俳人が30人ほど集まったという。俳句を通じてスペインと日本が交流していることについて、大使はこう話される。「日本の俳句は、20～30年前からスペインでも愛好されています。スペインの文学にも1～2行で表現する短詩型の散文のジャンルがありますが、“思いを短い言葉であらわす”ことに共通の魅力を感じているのだと思います」。

また、俳句以外にもスペインに影響を与えている日本の文化として、武道、木版画、マンガ、ビデオゲームなどを挙げられた。中でも、江戸時代の浮世絵版画は18世紀にはすでにスペインに伝わっており、マドリードのプラド美術館で、交流400年を記念した「日本の版画」特別展示が開催中だ。

公邸は、アメリカの開拓時代、スペインからの移民によって広まったスパニッシュ・コロニアル様式を踏襲した、瀟洒な建物。港区の歴史的建造物である。

公務の合間に、日本の素朴な風景を楽しまれる

大使館の敷地内には公邸もある。日本で活躍したアメリカ人建築家、ジェームズ・マクドナルド・ガーディナーによるもので、完成は1927年（昭和2年）。『スパニッシュ・コロニアル様式』の、美しいクラシカルな佇まいが印象的だ。都心とは思えないほどの緑豊かな庭に囲まれ、大使も日々、心地よく過ごされているという。

プライベートな時間では麻布から近隣へウォーキングしたり、富士五湖や伊豆方面へ、北海道、九州まで足を延ばすことも。「その際、裏道を通って昔から変わらない日本の素朴な風景を見つけるのが楽しみですね」。「どこへ行っても、日本人の礼儀正しさ、教育の素晴らしさを感じます」。また、食事については、お寿司や刺身をはじめ様々な和食をおいしく召し上がっているとのこと。「英語のメニューがない店では、読めない日本語を指さして注文し、何が出てくるかわからないけれども、それもまた楽しみです！」と、ユーモラスなお人柄もお見受けできた。

＊麻布台の外務省外交史料館にて、「特別展示　日本とスペイン―外交史料に見る交流史―」開催中。11月29日まで。

（取材／出石供子、田中亜紀、田中康寛、永浜和美　文／田中亜紀、田中康寛、永浜和美）

麻布未来写真館
～麻布・仙台坂を臨んで～

仙台坂下

昭和50年（1975年）写真撮影：田口政典氏　写真提供：田口重久氏

平成24年（2012年）

↗昭和50年の写真も約40年後（平成24年）の写真も、道路の拡幅もなく、坂を見上げる風景にも大きな変化がないようにも見えます。むしろ現在の写真の方が電線の数が増えているように見えるあたりは、現代っぽいかもしれません。

この坂の由来は江戸時代、この写真一帯に仙台藩下屋敷があったことに由来します。その頃からこの勾配は変わらず時代を歩んできたのでしょう。わずかながらも麻布の原風景を垣間見ることができる貴重な場所です。

仙台坂上

平成24年（2012年）

昭和49年（1974年）写真提供：桜井昭一氏

↗並べた写真を一見すると同じ場所？と思ってしまいますが、昭和49年の写真右手の信号機の奥に東京タワーが見えます。ほぼ同じアングルで撮影されていることがわかります。写真からは見えませんが、坂上付近は傾斜が激しく、麻布十番に一時住んでいた北原白秋は、「仙台坂　石の車を　ひきわびて　馬倒れたり　疲れけらしも」と詠んでいます。

坂上、坂下で表情がガラリと変わるようにみえる面白さも魅力的ですね。

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助（いちじょ）となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所までお寄せください。
詳細につきましては、「協働推進課地区政策担当」までお問合せください。
お問合せ　電話：03-5114-8812

（取材・文／田中康寛）

地域社会のゆくえ 12

カラスばかり悪者にせず、わたしたちもマナーを守って暮らしましょう

カラスと上手に暮らすお作法

人を襲った、ごみ置き場を荒らした、と悪さをしたことばかりが報じられることの多いカラス。でも、カラスにだって言い分はあるはず。都会生活をエンジョイしているようにも見えますが、山や自然がなくなったから仕方なく電柱に巣をつくったり、案外と彼らも苦労をしているのかもしれません。

カラスとどのように付き合ったらいいのか、麻布地区総合支所協働推進課協働推進係・土木係の方にお話を伺いました。

繁殖期のカラスによる襲撃

5月から7月にかけて、繁殖期をむかえたカラスが雛を守るために、巣に近づいた人を襲うというニュースを目にした人も多いのではないでしょうか。

麻布地区ではカラスについての陳情・相談が年間30件近く寄せられています。そのうちの半分がカラスに襲われたというものです。

カラスの巣は生い茂ったような街路樹や電柱の上など、さまざまな場所に作られます。また、カラスの習性から、同じカラスが同じ場所にまた巣を作ることはありません。

そのため、巣を作るのを未然に防ぐという対策は難しく、また見つけるのも一苦労という状況があります。

区民からの通報を受けて巣を探しにいっても、二度三度と足を運ばなくてはならないことがあるそうです。

カラスから目をそらさないのが、コツ もし襲われたら通報を

カラスも、正面から挑んでも体の大きい人間にはかなわないので、背後から襲ってきます。もし、襲ってきそうな気配を感じたら、カラスから目をそらさず、目を合わせた状態でその場を立ち去るといいそうです。

突然背後から襲ってこられるとなすすべがないのが現実ですが、ここで発揮したいのが助け合いの精神です。

もし襲われたら、「怖かった～」で終わらせず、被害にあった場所や状況について、協働推進係に通報しましょう。

近くにある巣を探し駆除することで、ほかの人が襲われることは防げます。

ゴミには無料で貸し出している防鳥ネットを活用、地域猫やハトの餌は出しっぱなしにしないで

都会のカラスの主な栄養源は、ゴミと、ペット・ハト・地域猫のために屋外におかれたエサです。ゴミに防鳥ネットをかければ荒らされて散らかることはありません。エサは外に出しっぱなしにせず、片づけるようにしましょう。わたしたちのマナーが向上すれば、カラスも悪さはできません。

防鳥ネット。みなとリサイクル清掃事務所（電話：03-3450-8025）や協働推進係（電話：03-5114-8802）で貸し出しています。

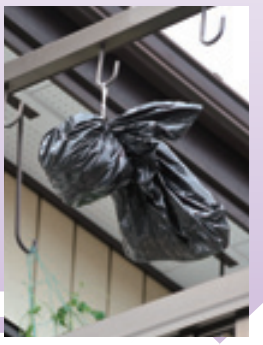
巣を見つけたら協働推進係に相談を

寄せられる陳情・相談の残り半分は、巣を見つけたので撤去してほしい、というものです。

区道の街路樹や区立公園の樹木だと麻布地区総合支所、都道だと東京都の港工区、電柱だと東京電力、のように管轄が分かれています（港区ホームページに掲載）が、まずは協働推進係に相談をしてみてください。

何も、カラスを根絶やしにしたいわけではありません。よくよく見ると、目がくりくりして愛嬌のある顔つきをしています。

人間の都合と折り合わないところだけカラスさんにご退出をお願いする、そんな気持ちでカラスと向かい合ってみるのはいかがでしょうか。そのためには人間もお作法を守って暮らすことが大切ですね。



黒いビニール袋をテルテル坊主のようにしたものがカラス除けに有効と係の方から聞いて、撮影スタッフが手作りしました。

※カラスに関するご相談は麻布地区総合支所協働推進係まで（電話：03-5114-8802）。港区ホームページ（http://www.city.minato.tokyo.jp/）にもカラス対策について掲載されています。

（取材・文／満木葉子）

麻布の軌跡
有栖川宮記念公園

有栖川宮熾仁親王の騎馬像

広尾駅からほど近い、有栖川宮記念公園は、多くの外国大使館や大使館関連施設、病院、テニスコートなどに囲まれ、都心にあるとは思えないほどひっそりとした佇まいを見せており、まさに「都会のオアシス」として近隣住民に親しまれている。今回は、この広大な公園の歴史を紐解いてみる。

有栖川宮記念公園は港区立の公園では最大の面積を誇っている。広さは、約6万7560㎡。東京ドーム約1.5個分にあたる。敷地内に併設されている東京都立中央図書館は、蔵書数約180万冊を誇る。公園は、有栖川熾仁親王の騎馬像や中央図書館のある東側の高台から、池のある西側の低地に向けて大きく傾斜した地形で、起伏のある自然を生かして池を中心に築山や樹木などを配した日本古来の林泉式庭園の景観を保っており、四季折々の草花や数多くの樹木を楽しむことができる。この公園が何故「有栖川宮記念公園」と呼ばれるようになったか、そのルーツを探ってみる。

江戸時代は大名屋敷だった

江戸時代の初期、この地には赤穂藩浅野家の下屋敷が置かれていた。その後幕末まで、その浅野家と土地を交換して赤坂から移ってきた盛岡藩南部家の下屋敷となり、幕末まで続いた。

南部藩下屋敷は約9万2560㎡あり、現在の愛育病院から野球場までを含む広さであった。南部藩が置かれていたことから、公園南側の公園に沿って伸びる坂は、「南部坂」※1 とよばれる。そして明治維新後、上地され（明治政府に接収され）、一帯が「麻布盛岡町」と命名されたのである。面白いのは、愛育病院脇の交番の名称は、今でも旧町名の「盛岡町交番」である。

四宮家のひとつ有栖川宮家の誕生と終焉

有栖川宮家は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての天皇である、後陽成天皇（1571～1617）の第7皇子、好仁親王（1603～1638）が創設した宮家である。天皇家を継承できる伏見宮、有栖川宮、桂宮、閑院宮の四宮家のひとつであった。

幕末、9代目当主　有栖川宮熾仁親王（1835～1895）は東征大総督として、江戸に上る。

戊辰戦争において東征軍（いわゆる官軍）の大総督を務め、江戸無血開城を成し遂げた人として知られている（公園内に騎馬像がある※2）。また、孝明天皇（1831～1867）の妹、和宮親子内親王（1846～1877）の婚約者であったことでも有名である。婚約解消後、和宮は14代将軍、徳川家茂（1846 ～ 1866）と結婚させられることとなった。

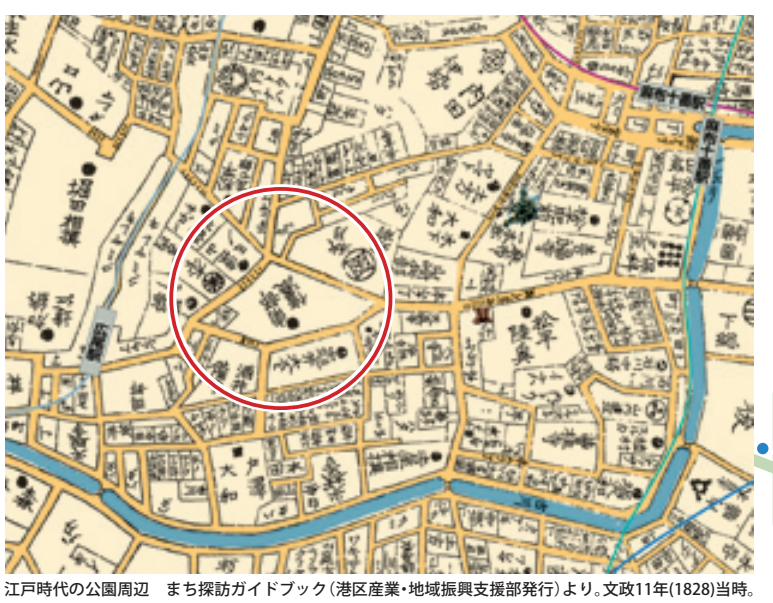
熾仁親王肖像
國學院大學所蔵

威仁親王
國學院大學所蔵

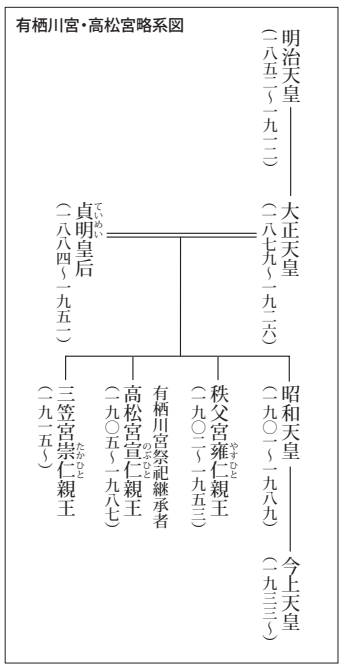
一方熾仁親王は、西南戦争、日清戦争と陸軍で活躍。この間、芝離宮、霞が関、麹町と住居を変えた。日清戦争の際は参謀総長として、広島の大本営に居た。日清戦争時、病を得て兵庫舞子の別邸で療養、明治28年（1895）1月没した。後継の王子女はなく、弟の威仁親王（1862～1913）が宮家を継ぐこととなる。威仁親王は、その嗣子の栽仁親王（1888～1908）の新邸造営のため、明治29年（1896）、盛岡町の旧南部藩下屋敷約9万2560㎡弱を買い求めたのである。しかし、栽仁親王も早世してしまい、威仁親王も大正2年（1913）7月亡くなられ、ここに有栖川宮家は絶えてしまうのである。

高松宮家から公園へ

大正天皇は、自身の第三皇子宣仁親王に有栖川宮家の祭祀を継がせ、「高松宮」の称号を賜った。※3 有栖川宮家の財産も高松宮が継ぐこととなった。高松宮は、昭和2年（1927）、高輪西台町に邸宅を造営され、麻布盛岡町の土地は不用となった。高松宮は、麻布盛岡町の付近の小学校に運動場がない（狭い）のをご覧になっていて、是非、小学児童に利用させたいとの希望で、昭和2年から、盛岡町の御用邸の庭のうち、約1万6520㎡を一般開放していた。



江戸時代の公園周辺　まち探訪ガイドブック（港区産業・地域振興支援部発行）より。文政11年(1828)当時。丸印が有栖川宮記念公園。『分間江戸大絵図』ⓒ人文社



高松宮は児童の福祉問題に関心が高く昭和9年（1934）、威仁親王の二十周忌の命日に、敷地の中央より西部の森林、池泉の庭園を中心に、敷地の約40％（約3万6360㎡）を公園用地として東京市に下賜された。そのころ、麻布周辺は未だ東京の郊外らしい雰囲気に満ち、公園が一か所もないことをご覧になって、特に幼児、学童の健康・福祉のためという思し召しで賜与されたのである。賜与されるにあたり、宮家より、できるだけ自然の原形を維持するようにと、希望されたという。東京市は1月に賜与されて、公園として自然を残しながら、現在の形のように整備して、11月に「有栖川宮記念公園」として開園した。※4、5、6

一方、皇太子（現天皇陛下）誕生記念（昭和8年（1933）12月23日）として、高松宮家より昭和9年（1934）東京府に、敷地の東北部の約21％（約1万9440㎡）を小国民修養道場（清風園、養正館）建設用地として賜与された。これが、後に都立日比谷図書館分室を経て、現在の都立中央図書館となる。なお、同じく皇太子誕生記念として、皇室より基金を下賜された財団が昭和13年（1938）に建てた病院が、愛育病院である。

港区立公園として区民の防災の拠点として

昭和51年（1976）公園は東京都より港区に移管され、このときすでに港区の管理していた野球場、庭球場の部分、旧有栖川御用地の約13％（約1万2860㎡）が新たに加わり、公園本体、都立中央図書館、野球場、庭球場からなる「港区立有栖川宮記念公園」が発足した。災害時においては「広域避難場所」に指定されており、防災の面からも住民の生活を支えている。

増補　写された港区三（麻布地区編）
開園2年目、昭和11年（1936）当時の公園内（市政概要）
港区立郷土資料館所蔵

※1　「南部坂」はかって公園が盛岡藩南部家の下屋敷であったことにちなむものだが、港区にはもう一か所、赤坂氷川神社近くに「南部坂」がある。こちらのほうも南部家の屋敷がここ広尾に移る前にあったことによるものだ。ちなみに「忠臣蔵」の芝居や講談でおなじみの「南部坂雪の別れ」は、赤坂の「南部坂」が舞台となったもの。

※2　有栖川宮熾仁親王の銅像は、三宅坂の旧参謀本部にあったが、昭和37年（1962）、オリンピック開催に伴う高速道路地下道建設工事のため、現在地に土台ごと移設された。この銅像は、明治の彫刻家大熊氏廣の作である。大熊氏廣はイタリアの彫刻家ラグーザ（お玉の夫）の弟子であった。靖国神社の大村益次郎の銅像も、同氏の作。

※3　「高松宮」の名は、有栖川宮家初代、二代が名乗っていた。三代から、菩提所の地名より「有栖川宮」と称えた。「高松宮」と「有栖川宮」は実質的に同じ宮家ともいえる。

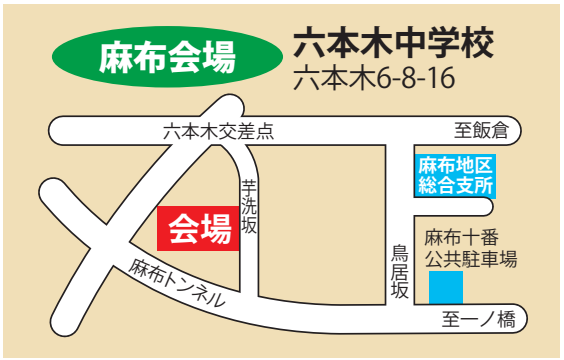
※4　「有栖川宮記念公園」の名称の由来は、賜与された高松宮殿下の思いを慮って、東京市が名付けた。

※5　開園当初は、園内の渓谷では自然水が流れ、豊富な杉林が残っていた。しかし、今日では、周辺の開発が進み、水源も涸れ、ポンプアップ用水に頼っている。

※6　公園設置の目的のひとつが、子どもたちの遊び場の確保である。このため、公園開設時、中央部高台に子どもたちの遊び場と、ステージ風の広場が用意された。開園当初、中央のステージに「有栖川宮御由来」のブロンズレリーフ板が、壁面にあったが、戦時中の金属供出で撤去され、そのままとなっている。由来の文章には、有栖川家の成り立ち、および熾仁、威仁両親王の事績が刻まれていた。

（寄稿／筧　正三　編集／高柳由紀子）

港区総合防災訓練（麻布地区会場）を実施します ～どなたでも参加可能です～



【日　時】 平成25年11月3日（日）午前9時30分～ 11時30分（小雨決行）
【場　所】 港区立六本木中学校校庭
当日参加した方に防災関連の粗品をプレゼントします。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／03-5114-8802

今年度新規取組

中学生スタッフの参加

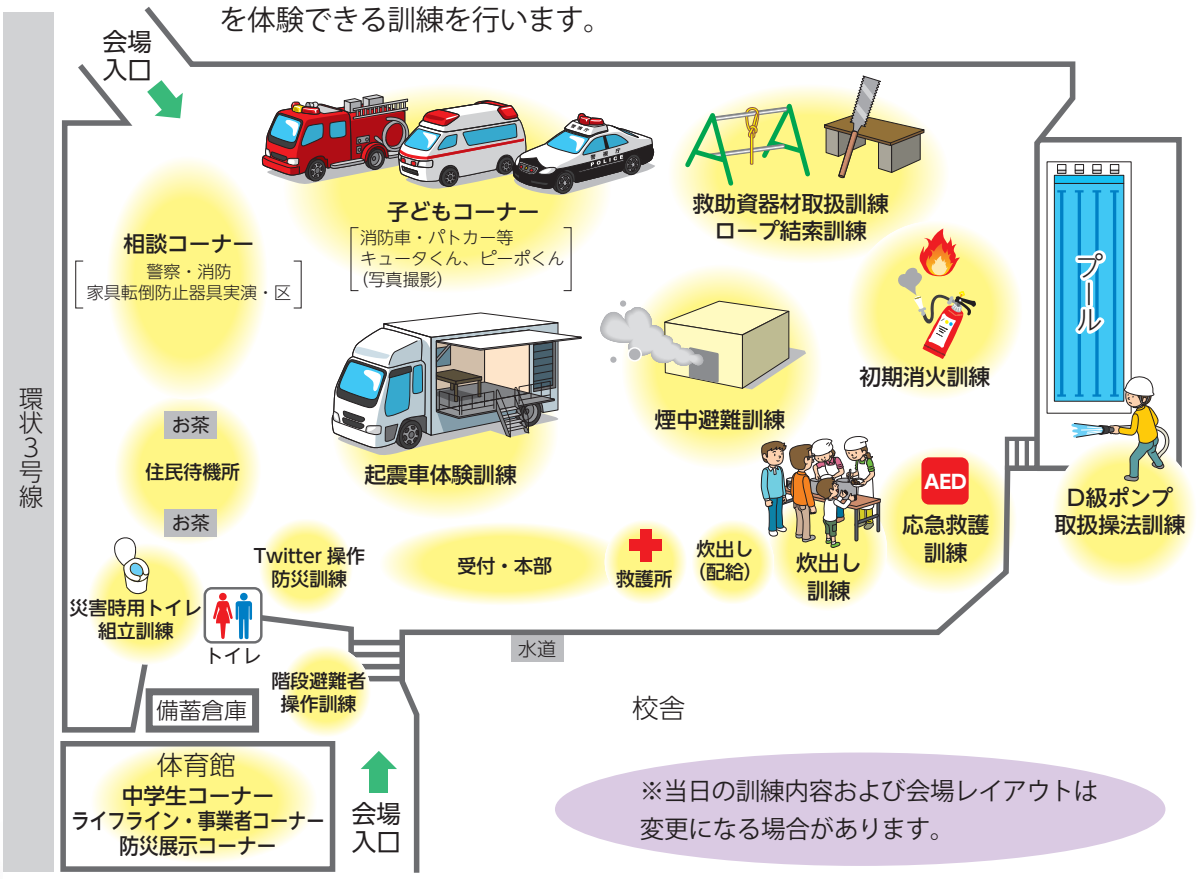
将来の地域防災の担い手として、六本木中学校の生徒が防災訓練の運営、訓練に参加します。中学生による展示や外国人の方への案内・受付も行います。

ライフライン事業者の参加

ライフライン事業者（東京ガス、東京都水道局・下水道局、東京電力等）やその他民間事業者による説明、展示等を行います。

Twitterを活用した訓練の実施

通信機器を利用し、Twitterの登録・使い方を説明して、主に情報の受発信を体験できる訓練を行います。



※当日の訓練内容および会場レイアウトは変更になる場合があります。

「地域の防災力」の向上を目指そう！

～災害時には、皆さんの協力が必要です～

私たちの住む日本の国土は、世界の他の国に比べて、地震・台風などの自然災害が起こりやすく、今までも度々大きな被害に見舞われています。生じた災害の規模が大きければ大きいほど公的支援の機能は減衰します。その状況において重要になるのは、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を身につけ、適切な行動をとることです。

今回の総合防災訓練では、今後30年以内に70%の確率で発生すると言われているM7クラスの首都直下地震に被災して、多くの建物および人的被害が出たことを想定し、さまざまな訓練を行います。訓練に参加していただくことで、一人ひとりの防災意識の向上や「被災時に的確な行動をとり、自分が何をするべきか」について考える良い機会になります。大規模災害から自分や家族の命、地域を守るためにも、ぜひ港区総合防災訓練にご参加ください。

「麻布アートフェスタ」を楽しもう！

麻布地区総合支所では、アート・デザインを通じて地域のつながりを深めることを目的に「麻布アートフェスタ」を開催しています。年間を通じて開催することで、参加者同士のふれあいと交流の場となるよう事業を行っています。

第1弾として、「麻布のまちを応援してくれるキャラクター」をテーマに、麻布アートフェスタキャラクター募集を行いました。今回優秀賞に輝いた作品は麻布のまちを応援するキャラクターとして、麻布アートフェスタのオリジナルグッズなどに登場し、活躍してもらいます。10月中旬頃（予定）から、募集作品を麻布地区総合支所1階ロビーに展示予定です。ぜひ、ご覧ください。

ワークショップでは、8月には有栖川宮記念公園にて「感動！セミの羽化」を開催し、身近な自然の中にある神秘的なアートである羽化の瞬間を観察しました。

今後も、様々なワークショップを企画しています。

11月「（仮称）AZABUで書！墨と筆で遊ぶ3」

墨と筆を使って書の世界を体験するワークショップです。子どもから大人までどなたでも参加できます。

※他にもアートを通じた様々なイベントを企画中です。
※内容は変更になる場合があります。

詳細は「広報みなと」、麻布アートフェスタ広報紙「ア！ザブザブ新聞」、区のホームページ等でお知らせします。お見逃しなく！

麻布アートフェスタ Azabu Art Festa

お問合せ／麻布地区総合支所管理課管理係　電話／03-5114-8805

都税についてのお知らせ

にせ都税職員にご注意ください！

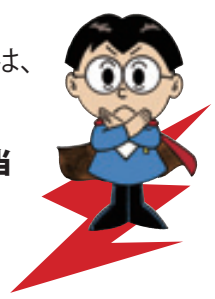
都税事務所の職員を装って、個人情報を不正に取得したり、金銭をだまし取ろうとする事例が発生しています。

手口の内容

- 都税事務所の職員を装って電話をし、家族構成や職業等の個人情報を不正に取得しようとするもの
- 都税事務所の職員を装って電話をし、税金や医療費が還付されるかのように偽り、ＡＴＭからお金を振り込ませようとするもの

相手の電話番号が非通知表示など、不審に感じた場合は即答せずに、必ず一度電話を切り、最寄りの都税事務所または主税局総務部総務課相談広報係（03-5388-2924）までご連絡ください。

また、万が一被害にあわれた場合は、すぐに警察にご連絡ください。



お問合せ／都税事務所の相談広報担当
港都税事務所
電話／03-5549-3800
または
主税局総務部総務課相談広報係
電話／03-5388-2924

港区麻布地区総合支所だより

「六本木安全安心憲章」が制定されました
～賑わい綺麗なまち六本木を目指して～

7月23日の六本木地区安全安心まちづくり推進会議において、「六本木安全安心憲章」が制定・採択されました。

この憲章は、六本木が目指すまちの姿を宣言するとともに、六本木のまちですべての人が守るべきまちのルールを示したもので、まちの課題である「防犯」「環境美観」「路上喫煙」「道路使用」「営業活動」の５つに対応して作ったものです。

今後はこの憲章を広く周知し、六本木地区にかかわりのある多くの人々や団体の皆さんにも関心を持っていただけるよう、さまざまな活動を実施していきます。

六本木を安全で安心なまちにするためには、皆さん一人ひとりの意識と行動が大切です。皆さんのご協力をお願いします。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電　　話／03-5114-8802

六　本　木　安　全　安　心　憲　章

賑わい綺麗なまち六本木を目指して

私たちは、ここ六本木のまちで全ての人が守るべきまちのルールとして、「六本木安全安心憲章」を宣言します。

六本木地区は、戦後わが国の成長と軌を一にしてまちの興隆を迎え、今やわが国有数の繁華街・ビジネス街であるとともに、文化・芸術の発信拠点ともなる、世界に名立たるまち「ROPPONGI」となっています。

このまちに暮らし、又は訪れる全ての人々が、心の平穏を保ち、歓びを謳歌できるよう、私たちは共に手を携え、連帯し、「賑わい綺麗なまち六本木」を目指し、守り続けます。

平成25年７月23日　六本木地区安全安心まちづくり推進会議

犯罪を防ごう
- 安全安心パトロールなど、まちの活動に積極的に参加します。
- 子ども達を地域で見守ります。
- 犯罪行為を見たら、ただちに警察に通報します。
- 警察と連携し、暴力団等を排除します。

美しいまちにしよう
- まちをきれいにする活動に、積極的に参加します。
- 勤めている店舗や家の前は日頃から清掃します。
- ごみはまちの迷惑にならないよう、正しい処理をします。
- 落書きをしない、させないまちにします。

安全で安心できる道にしよう
- 道路での飲酒・たむろする行為などにより、人の迷惑になることをしません。
- 許可のない広告物を道路上に置きません。
- 許可なくチラシ等の配布はしません。
- 自転車は指定された場所に駐車し、放置や違法な駐車はしません。
- 自転車の運転ルールを守り、危ない走り方はしません。

近隣に迷惑をかけない営業をしよう
- 人の迷惑になるような、客引きや客待ちはしません。
- 営業にあたっては、騒音、悪臭等を出しません。
- 脱法的なナイトクラブ（無許可）など、悪質な営業は認めません。
- 深夜営業を行う店舗は、従業員を指導し、近隣に迷惑をかけません。

タバコを吸うときは決められたルールを守ろう
- 「みなとタバコルール」を守り、決められた場所以外では喫煙しません。
- 吸い殻をポイ捨てしません。

子育て座談会
～みんなの子育てはどう?～

育児で気になることについて、参加者と講師（心理士）が気軽に話しながら、みんなでほっとできる座談会です。

対象／麻布地区在住の区民で、3歳までの子どもがいる保護者

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係保健師
住　　所／港区六本木5-16-45
電　　話／03-5114-8822

日　　時	平成25年11月26日（火） 午後1時30分～ 3時
テ ー マ	「育児分担について」
申 込 み	電話で平成25年11月1日（金）から 11月18日（月）に電話申し込み
場　　所	麻布区民センター
募集人数	10組（先着順） ＊保育対象は4ヶ月児から3歳児まで
講　　師	元NHKラジオ「子どもの心相談」 アドバイザー　内田　良子　先生
費　　用	無料

熱中症にご注意ください。

必要な水分と塩分を摂りましょう。
エアコンや扇風機など、
空調を上手に使いましょう。

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

ご住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・ご意見・ご要望（日本語又は英語、字数・様式自由）を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課へ。
●電話／03-5114-8802　●FAX／03-3583-3782

編集委員を募集しています

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。
「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちぃばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、南麻布・本村・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief	田中亜紀	
Sub Chief	高柳由紀子	
Staff	出石供子	田中康寛
	大澤佳枝	永浜和美
	大村久美子	満木葉子
	尾崎恭彦	森　明
	折戸桂子	山下良蔵
Junior Staff	阿部真奈	太田真緒
	井上れみ	

編集後記

「・・の記事、面白かったですね」編集委員になってから、麻布に住む知人や近隣の方から声をかけられることが多くなりました。 身の引き締まる思いです。 今回も、担当者一人ひとりの丹念な取材と猛暑に負けないアツイ編集会議の末、ソフトとハードを兼ね備えたバラエティ豊かな内容になったと思いますが、いかがでしょうか？　ご意見、ご要望をお待ちしています。 もちろんご声援も！

（山下良蔵）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00 ～午後11:00　　※英語での対応もいたします。

電 話／03-5472-3710　FAX ／03-5777-8752
Eメール／info@minato.call-center.jp

"Minato Call" information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; , E-mail: info@minato.call-center.jp

※23号24号の「アートな麻布に魅せられて」「港区麻布地区総合支所だより」の地図中、「綱代公園」は「網代公園」の間違いでした。お詫びして訂正します。